第２学年　特別活動　【交通安全】　　　　場所　２年Ａ～Ｃ，Ｅ，Ｆ組教室，英語室２

自転車の「ながら運転」の危険性を校区の小学生に伝えよう

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導者　教諭　宮沢　大地

１　指導のねらい

中学校保健体育における傷害の防止に関する学習を基礎とした見方・考え方を働かせ、交通事故から身を守り安全に行動の仕方を身に付けさせる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【知識及び技能】

地域の交通安全上の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりできるようにする。小学生に「ながら運転」の危険性や正しい交通安全行動の大切さを分かりやすく伝えることができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【思考力、判断力、表現力等】

地域社会で生活する一員として、地域の交通安全を守り、安全文化を積極的に構築しようとする意欲を身に付けさせる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【学びに向かう力、人間性等】

２　学習指導要領との関連

特別活動　学級活動（２）エ「安全な生活態度や習慣の形成」

　　　　　　　　　　　（３）イ「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」

３　安全に関する視点

地域社会において他者や社会の安全に貢献できる生徒の育成を目指す。生徒は小学校算数、中学校保健体育など教科等での学びによる見方・考え方を十分に働かせる。あわせて、地域の安全文化の構築には、これまでの学びを地域等に発信しなければならないという使命をもって活動に取り組む。

４　関連する教科等の内容

　　小学校体育　　　「交通事故の防止」

　　小学校算数　　　「速さ」　「変化と関係（比例、反比例）」

　　中学校数学　　　「比例、反比例」「一元一次方程式」

　　中学校理科　　　第１分野　「運動とエネルギー」

　　中学校保健体育　保健分野　「傷害の防止」

　　中学校美術　　　「交通安全のポスターを作ろう」

　　中学校国語　　　「交通安全に関わる標語を考えよう」

５ 指導計画（４時間＋保健体育１０時間）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | 学習内容 | 評価規準 |
| １ | 警察署員から市内で起きている交通事故の特徴を聞く。特に「ながら運転」による事故状況について聞き問題点をまとめる。  （講師　警察署員） | 警察署員から自動車の「ながら運転」による事故、歩行者の歩行中、自転車運転中の「ながら運転」による事故の実態を聞き、これまでの学習と関連付けながら、なぜ「ながら運転」が増えているのか、なぜ「ながら運転」をしてしまうのかなどの問題点を整理できる。 |
| ２ | 小学生に「ながら運転」の危険性を分かりやすく説明するための話し合いを行い説明の方法などを決定する。 | 小学生に「ながら運転」を説明する意図を理解すると共に、これまでの学習を分かりやすく説明するために、説明原稿を作ったり、説明補助材としての視聴覚機材やポスターなどを作成したりしている。 |
| ３  【本時】 | 小学生に「ながら運転」の危険性などを分かりやすく説明する。 | 意欲的に小学生に「ながら運転」の危険性を説明している。中学生である自分たちを含め、小学生もこれからの安全文化の形成者としての担い手であることを発信している。 |
| ４ | 小学生の書いた感想文やアンケート回答から、これまでの取組の振り返りを行う。 | 集団や社会の形成者のとしての見方・考え方を働かせながら、課題解決に主体的、実践的に取り組んでいる。 |
| 関連 | （保健体育〔１０時間〕）  交通事故の危険予測と回避 | 交通事故による傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを、数学的、科学的な知識及び技能を活用しながら考える。傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、他者や社会に伝えようとする意欲や態度を身に付ける。 |

６　本時の学習の展開

（１）ねらい

　　保健体育科における傷害の防止に関する学習を基礎とした見方・考え方を働かせながら、小学生に「ながら運転」の危険性などを分かりやすく説明する。

（２）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動・学習内容 | 支援・留意点　◎評価 |
| 導  入 | 「ながら運転」の危険性を小学生に分かりやすく説明しよう  「ながら運転」撲滅宣言をしよう  私たちは何ができるだろうか  ○本時の課題について確認する。  ○班ごとに、役割分担、説明手順を確認す  る。（説明者、説明補助者、機器操作担  当、ポスター担当など） | ・６班が６会場に分かれて説明を行う。  ・必要に応じて、説明会前に機材等の準備を行う。 |
| 展  開 | ○各班ごとに小学生の各グループに出向き「ながら運転」の危険性などについての説明を行う。  ○説明後には、小学生からの質問などに答える。  ○全班が共通して以下の質問を小学生に行う。小学生は挙手をして答える。  ①時速１５ｋｍの自転車は、２秒間で何ｍ進むか。（小学校算数「速さ」）  ②「ながら運転」は法律で禁じられているか。  （加害者にもなる可能性について） | ・小学校算数「速さ」、小学校体育「交通事故の防止」と関連させた説明になるようにする。  ・保健体育で体験的に学んだ事項をスライドやポスター等を使って分かりやすく説明する。  ・自転車に限らず「ながら運転」や「ながら行動」の事故の実態にも触れる。  ・児童は小グループで話し合い、答えを考える。  ・①の質問は、各グループで噛み砕いて答えを導く。  ◎「ながら運転」の危険性を分かりやすく説明している。小学生が、「ながら運転」がなぜ危険なのかを理解している。 |
| ま  と  め | ○「ながら運転」撲滅宣言  ○児童の感想や本時での学び等の発表  ○教師による講話  ○アンケートの実施 | ・小学生と中学生の代表生徒（児童）が全体の前で  「ながら運転」をしないこと、「ながら運転」を社会から撲滅するために努力することを宣言する。  ◎児童の撲滅宣言で具体的な取組を述べている。 |

（３）期待する生徒の反応

「地域の活動などでも『ながら運転』の危険性を発信していきたい」

「『ながら運転』は危険なので絶対にやらない。」

「小学生に上手に説明することができてよかった。」

「小学生だけではなく、家族などにも交通安全に関して学んだことを伝えていきたい。これからも交通安全に注意していきたい。」